



第6回博愛社実践報告会を再開しました!

去る2023年11月22日、法人の大切な行事である「博愛社実践報告会」がついに再開する運びとなりました。

1番手の発表者は、今年度4月に開設された「博愛社いずみ」の1つのお家である紅葉（もみじ）ホームです。より家庭に近い生活の営みを説明しながら、その大切さを丁寧に話されていました。

2番手は生野区にある「こひつじ乳児保育園」より2歳児の体力・運動機能向上を目指してプロの先生にご教授をいただきながら先生たちが奮闘する姿を見せていただきました。

3番目の発表では「博愛の園サテライト特養清心館」よりお年寄りの利用者に寄り添う看取りを体験して、感じたことや自分たちのこれからの思いを熱く語られていました。

最後の発表は、今年度5月開設の「児童発達支援ステラ」です。こどもたちの可能性を信じてあきらめない!!という強い意志を持って取り組んでいる様子が伺えました。

講評では畑野理事長が一人ひとりの内容を具体的に受けとめ、ねぎらひの言葉をかけられていたことも印象に残っています。

今回は第2部の交流会も行い、発表を終えられた方々はほっとした笑顔で回りの方々と交流を深めておられました。

発表者に選出されると、日々の業務に加え時間を見つけていることも題材を考えパワーポイント資料として作成していくことも大変だっただろうと察します。しかしこのような日々の実践を省察しとめ、しかも大勢の方々の前で発表するという行いは、一人ひとりを大きく成長させていくものだと考えます。そして成長するその一人ひとりの資質の向上が、ひいては法人全体の質の向上へとつながるのだとつくづく感じた一日でした。

唯一制限を設けていた来賓のご招待を次年度は元に戻し、博愛社の理念「隣人愛」に向けて日々取り組んでいる現場の様子をぜひ多くの方々に肌で感じていただきたいと思えます。

【第6回法人実践報告会準備担当
野上千春】



「語るうちに思いも熱くなります」



「緊張の面持ちで質問を受ける発表者」

芳交会開催

【児童養護】

2023年11月25日、3年ぶりに芳交会(里帰りの集い)が開催されました。元職員、87歳から2023年3月に退所した18歳までの幅広い年齢層の方々総勢37名がご参加くださいました。博愛社を15歳で退所し、憧れの女子プロレスに入門したコマンド・ボ

リシヨイさんが、11月25日はデビューした日であり原点に立ち返りたいとの思いで、初めて参加してくださいました。また、開催に向けて87歳男性と話をする中で、食べるものがなくて貧しかったが、先生方が一生懸命食べ物を与えてくれたこと等、当時の事を語っていただき私自身創立から今日までの博愛社を思い考えるよい機会となりました。当日は、賑やかで笑顔あふれる会となり「また来年！」を

合言葉に、また元気な姿で会える事を楽しみにしています。

【博愛社いずみ主任

西川真砂子】



【思い出話に花が咲きました】

看取りケアで大切にしていること

【サテライト特養清心館】

四季折々

清心館では開設時から看取りケアを行っています。元気だったころの好きなもの嫌いな事、好きな人、香り、趣味などを職員間で共有し、ご家族のご協力のもと一日一日を大切にします。認知症だから、話せないからと決めつけず、医師が看取り期だと判断した後も最期までその人らしく過ごせるように職員一同で支えます。“自由に会えない”からこそご家族との情報共有が不可欠だと思っています。「もっとこうして欲しいのに」と感じておられる事もたくさんあると思います。その声を私達職員は必要としています。たくさんご家族・ご本人と話し、寄り添い向き合っていきたいと思っています。

【副主任 松村 唯】



Ris & Seikoさんによるフルートとチェロの演奏会 (清心館風景)より



【トリックオアトリート】

- 博愛社後援会会費
- ▽個人 1口 3千円
- ▽法人 1口 1万円
- いずれも年会費で、期間は4月
- 翌年3月
- ▽郵便振替口座番号 00920・7・4676
- ▽口座名義 社会福祉法人 博愛社

【児童指導員 青木沙矢】

10月31日にハロウィンのイベントを行いました。子どもたちがマントやお面で仮装をまわして、博愛社内の施設をまわり「トリックオアトリート!!」と言ってお菓子を貰いました。法人内の他施設の職員や利用者の方と関わることができ、子どもたちにとっては大変貴重な経験となりました。合言葉を「上手に言えるように練習をした子」「恥ずかしながたいと思います。今後もイベント活動等を通して、他施設の職員や利用者の方々にわくわくの子どもたちを知ってもらい、親しんでもらえる機会を増やしていきたいと思っています。

トリックオアトリート

【放課後等デイサービスわくわく】



博愛社フェスティバルの ご報告 【児童養護】

10月15日
に開催した
博愛社フェ
スティバル
は新型コロナ
ナの行動制
限解除後、
数年ぶりに
地域の方に
も来場して

いただくことができました。
想定を超え、たくさん地域
の方、博愛社を巣立った多く
の退所児童が来場し盛大に開
催することができました。
各模範店の売り上げの10%
を日本赤十字社に募金すると
共に、児童養護施設博愛社で
暮らす子どもたちへ還元し、
生活の一部となり、より豊か

な生活を送ることに役立てさ
せていただきます。博愛社
フェスティバルを開催するう
えで、高齢者部門、教育・保
育部門・障がい者部門と連携
することができ法人で団結す
ることができました。また、
地域の企業様や、ご家庭から
バザー用品を募りご協力いた
だいたことで大変活気のある

【博愛社フェスティバル委員会
主担 西川篤志】



「大変賑わいのある博愛社フェスティバルになりました」

ケアハウス はくあいで の暮らし 【ケアハウスはくあい】

ケアハウスはくあいは、
1998年4月に特別養護
老人ホーム博愛の園とともに
開設された軽費老人ホームで
す。定員が30名で60歳以上の
単身者、ご夫婦・ご家族が暮
らされています。ケアハウス
は原則として介護を必要とし
ない方が対象ですので、日々
の過ごし方は人それぞれです。
近隣から入居された方は、毎



「囲碁を楽しむ入居者さんたち」

日のように以前お住まいだっ
たお家を通ったり、お友達を
訪ねたりされています。また、
梅田まで買い物に出かけたり、
温泉に泊まりで出かけたり、
海外旅行された方もい
らっしゃいました。同
時にご利用者さんの平
均年齢も86歳となり、
安全な入浴やリハビリ
のためにデイサービス
やヘルパーを利用され
たり、デイサービスを
利用するために出かけ
る方もいらっしゃいま
す。このようにケアハ

【施設長 成田吉哉】

楽しかった クリスマス祝会 【こひつじ乳児保育園】

12月16日、4年ぶりに会食
ありのクリスマス祝会が行わ
れました。
礼拝後、2歳児による歌や
クリスマスのお話、職員によ
るペープサートや劇を親子で
楽しんでいただきました。
祝会が終わるとお楽しみの
会食が始まりました。
いつもと雰囲気が違う保育
室で、保護者と一緒に食べて
いる姿はともほほえましく
嬉しくなる光景でした。
子どもたちの楽しみにして
いたサンタさんが、クリスマ



「みんなで鈴の演奏を頑張りました」

スプレゼントを持って来てく
れました。嬉しそうにプレゼ
ントを貰いに来る子や、びっ
くりしてしまう子もいました
が、最後にはみんな笑顔で手
を振り大事そうにプレゼント
を抱きしめていました。
【1歳児担任 中村未来】

**「駄菓子屋はくあい」
オープン
【児童養護】**

10月29日に駄菓子屋はくあいをオープンしました。運営方針の一つである「地域生活支援の強化」として、地域の

子どもたちに向けたイベント（50円で駄菓子詰め放題）を行い、貧困対策や子どものSOSをキャッチするなど、地域ニーズの把握と支援へ繋げていくことを目的とする活動です。この企画に際して、株式会社ダイヘン様のご寄付

を活用させていただいております。第1回目では、根のシンさん、misonoさんからのギターの寄付イベントがあり、みらい子ども財団の皆様、関西大学の学生の皆様にもボランティアでのご協力をいただいで大盛況でスター

トしました。毎月1回の開催ができており、ご協力いただきました皆様に改めて感謝申し上げます。今後も子どもたちのために継続して取り組んで参りますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



「もっと詰め込んでいいですよ〜」

【副主任 勝原駿】

博愛社は今年、創設一三四年目を迎える。昨年末、戦前までの博愛社の歴史に関する著書を上梓することができた。この背景には創立者小橋勝之助に関する資料から現在に到るまでの膨大な資料が博愛社に遺されており、今後の博愛社や福祉を考える上で何物にも代えがたい大きな財産の存在があった。

後の研究を視野にいれながら、それへの枠組みを構築し、研究への「一里塚」として出版した。ここには博愛社をはじめ多くの人の協力があつた。本書は三部構成からなり、一部として創立者の小橋勝之助、弟実之助・カツエ夫妻、それに林歌子の四人を紹介し、二部では、児童養護や普通学校、愛隣夜学校、母の家、里預け制度などの諸事業、そして三部には、大阪地域との関係、博愛社を支えた人物、博愛社研究の可能性等についても言及した。こうした事業や人物、そして資料から見えてくるものは、近代日本の社会状況に

ほかならない。社会福祉の歴史は一般の歴史の舞台には登場せず、いわば影のような存在である。しかし、施設一つとっても、ここで暮らす一人ひとりの大切な人生ドラマがある。我々の研究は大きな歴史ではなく、

い」と言った。今、日本は人権から疎外され、「生きづら社会」になりつつある。激変する社会の中で博愛社の将来像を見据えていくとき、過去に関わった人々の努力や課題を問い、その伝統と精神を常に確認していくことにある。

いは欧米の理論から日本をみていくという作業でなく、実態を描くことの重要性を指摘した。先人が残された博愛社の膨大な資料は、博愛社だけでなく、日本の福祉の「宝」であり、遺産であり、今後の福祉を考えていく時の「羅針盤」である。資料に接しながら常に「温故知新」という古諺が頭をよぎる。今後ともよろしく御協力お願い申し上げます。

『大阪の児童福祉の先駆 博愛社の史的探究』を上梓して

博愛社の歴史探検 [41]

この二〇年間、博愛社の御協力のもと、資料整理とその保存を並行しておこなってきた。二〇〇七年からは文科省から資金援助を戴き、保存と共に研究にも少しずつ力を注いできた。我々にとつて一三五年に垂んとする歴史を問うことは、資料から学び、大きな財産として遺し、世に問うことにある。こうして今

小さな歴史を見ていくことに重要な意味を持つ。それは生まれ出でた人間の生きざま、生存に関わっているからである。一人の幸福が我々の幸福に繋がる。宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と論じている。

さき人びとが、維新以来の大きな変動をどううけとめ、自分自身の「近代」を創り出すために、どのような心を尽くしたかを語りたい」(二二頁)と論じている。

借り物の理論、ある



「博愛社の史的探究 (六花出版)」

（関西学院大学名誉教授 室田保夫）